

2019年7月25日

当院でアラガン社のインプラントによる乳房再建を施行された患者様へ

以前より指摘されておりました、テクスチャードタイプのインプラント挿入部に稀に発生するブレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫(以下、BIA-ALCL)に関連し、2019年7月25日、アラガン社は同社のエキスパンダー、インプラントを世界的に自主回収すると発表しました。

既にインプラントを挿入されている患者様にはご心配をおかけしていることと思います。BIA-ALCLの発生率は以前より1/3800-1/30000と報告されており、発生率が急に上昇したわけではございません。また、インプラントを挿入されていない方がリンパ腫に罹患する確率は1/10000と言われております。現時点で既にインプラントが挿入されている患者様に対して、インプラントの抜去は推奨されておらず、従来通り、2年(できれば1年)に1回の定期受診が必要となります。

BIA-ALCL に関する詳細は日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会のホームページ (<http://jopbs.umin.jp/>) より「一般の皆様へ」をご選択いただき、「お知らせ」をご参照ください。

今後の対応は学会から新たな方針が決定次第、随時ご報告させていただきますので、よろしくお願い致します。

その他、ご不明な点がございましたら、形成外科外来までお問合せください。

大阪大学医学部附属病院 形成外科診療科長 久保 盾貴
診療局長 富田 興一

【お問い合わせ先】

大阪大学医学部附属病院 形成外科外来
06-6879-5111 (代表)